

日本語動詞の上下イメージ図式

—尊敬は上？ 軽蔑は下？—

平 知宏^{1 2}(sakusha@syd.odn.ne.jp) 中本 敬子³(knakamoto@nifty.com)

楠見 孝¹(kusumi@educ.kyoto-u.ac.jp)

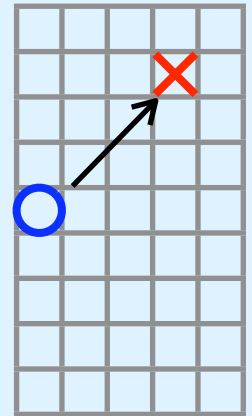
¹京都大学大学院教育学研究科 ²日本学術振興会 ³文教大学教育学部

目的・仮説

- * 日本語動詞の理解から生起する**イメージ図式(Image Schema)**を探る。
 - ✓ 身体経験から生起する, 抽象度の高い知識構造・空間表象の一種(e.g. 多い-上: 少ない-下)
 - ✓ 言語学や発達心理学では重要な概念(e.g. Lakoff & Johnson (1980) の隠喩的拡張, Piaget の感覚運動スキーマ)
 - ✓ 日本語を対象としたイメージ図式研究は, 非常に少ない (e.g. 西尾, 1995; 中本, 2001) .
- * **具体的な行為を示す動詞だけでなく, 抽象的な概念から派生する動詞にもイメージ図式が存在する.**
 - ✓ 物体を上方向に動かす→「持ちあげる」 偉い人は上にいる→「尊敬する」 (e.g. Richardson et al., 2001)

方法

- * 参加者
文系大学生268名. 質問紙を用いた集団形式で行った.
- * 材料
日本語動詞(複合動詞を含む)128語. 選定の基準については, 別紙詳しく.
- * 手続き
 - ・ 「○が×を__した」形式の動詞文を参加者に呈示し, その文が示す状況を5×9マスのグリッド上に「×」印を入れることで, 絵を完成させるよう求めた (「○」印の位置は座標(0,5)又は(5,5)上のいずれかに呈示) .
 - ・ 「日本語がわからない人に, その状況を説明する時を想定するように」 「状況をイメージして」描くように教示を与えた.
 - ・ 描画した後に描いた「×」が「実際の空間の位置と一致することになるかどうか (1: 一致する / 0: 一致しない) をたずねた.



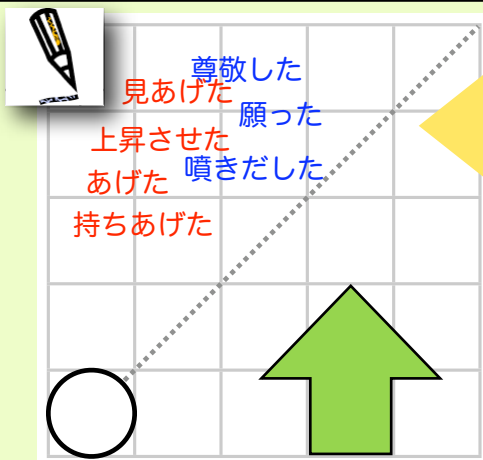
Ex. 「○が×を尊敬した」

結果・考察

上図式 (UP Image Schema)

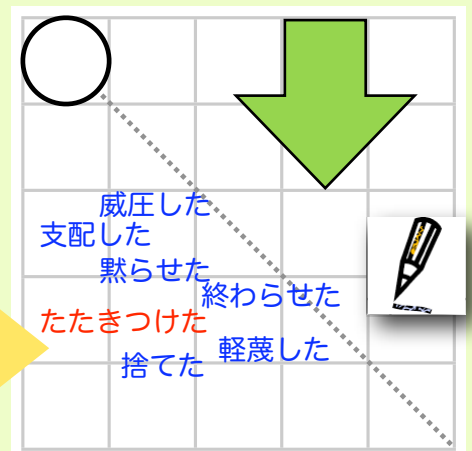
赤字: ×が実空間と一致
青字: ×が実空間と不一致

下図式 (DOWN Image Schema)



尊敬すべきもの, 願う対象は, 実際には上にはないにも関わらず, 上の位置に描かれる.

軽蔑すべきもの, 支配対象は, 実際には下にはないにも関わらず, 下の位置に描かれる.



- * 「持ちあげる」「たたきつける」といった具体的な行為を指す動詞から, 上下のイメージが得られた.
 - ✓ 行為の対象となる目的語が, 実際に移動するイメージを持ちえる.
- * 「尊敬する」「軽蔑する」といった抽象的な行為を指す動詞からも, 上下のイメージが得られた.
 - ✓ 「偉いもの」は「上」にある, 「良くないもの」は「下」にある.....といった具合に, 抽象的な概念が具体的な上下のイメージに基づいて理解されている可能性がある. → 「上下」概念は経験的なものが基盤となる(Lakoff, 1980; Gibbs, 2006).

材料

- * 日本語動詞128語。「○が×を__した」形式で呈示.
- * 材料選定の基準.
 - ✓ Richardson et al. (2001)で使用された, 垂直動詞.
 - ✓ 「リーダーズ電子英和辞書」より「up」及び「down」の例文検索を行い, そのうち「S V O up (down)」形式の文をとる例文を日本語訳し, より親密度の高い表現に言い換えた.

結果一覧

動詞	平均角度	S D	実空間との一致 (1-0)
持ち上げた	69.31	39.22	0.81
上げた	57.14	49.68	0.81
見上げた	50.33	32.46	0.74
尊敬した	48.57	27.81	0.35
噴き出した	48.19	41.67	0.40
上昇させた	48.02	43.11	0.64
願った	47.21	21.63	0.26
受け取った	4.79	42.21	0.24
掘り起こした	3.97	54.29	0.33
許可した	3.39	53.44	0.14
救った	2.38	53.14	0.19
もらった	2.23	51.55	0.23
貯めた	-1.55	59.92	0.13
我慢した	-3.86	59.95	0.13
軽蔑した	-45.64	25.26	0.31
終わらせた	-48.89	40.44	0.19
捨てた	-49.93	31.51	0.34
威圧した	-51.08	43.77	0.33
たたきつけた	-55.74	36.62	0.57
黙らせた	-56.23	37.16	0.17
支配した	-69.58	55.75	0.36

* 平均角度は, 参加者毎の「×」の描画座標を用いて逆正接からの角度を求めた平均値である.

- * 平均角度絶対値とSDとの間に, 逆相関 ($r = -.66$) .
 - ✓ 上あるいは下の位置に「×」をとる動詞文については, 参加者間での分散が小さいが, 水平あたりに「×」をとる動詞文に関しては, 「×」描画座標のばらつきが大きく, 参加者間で一貫したイメージを形成していないということが考えられる.
- * 動詞表現の理解に何が理解されているか? .
 - ✓ 単純な語彙的な情報.
 - ✓ 「上or下」といった空間的な情報. しかも, 「何か偉いもの」「支配するもの」といった抽象的な概念に基づいた行為を示す動詞文にも当てはまる.
 - ✓ 空間表象と言語表象の相互作用? 抽象概念はどのようにして成り立っている?

引用文献

- * Gibbs, R. W. (1996). Why many concepts are metaphorical. *Cognition*, 61, 309–319.
- * Gibbs, R. W. (2006). *Embodiment and Cognitive Science*. Cambridge University Press.
- * Lakoff, G. & Johnson, M. (1980). *Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press.
- * Richardson, D. C., Spivey, M.J., Barsalou, L.W., & McRae, K. (2003). Spatial representations activated during real-time comprehension of verbs. *Cognitive Science*, 27, 767–780.

謝辞

- * 京都大学大学院教育学研究科: 木戸口英樹, 木村洋太, 常深浩平
- * 京都大学教育学部: 衣川裕子